

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「できるひとが できるときに できることを」「子どもも大人も共に学び、育ち合う」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

- ・令和2年7月に地域学校協働本部を立ち上げ、協働本部を中心に支援ボランティア・支援ボランティア団体と学校との連携を深め、スムーズな教育支援が実施できるよう努めている。
- ・ボランティアの高齢化や減少、教職員の働き方改革を踏まえ、児童生徒にとってより良い教育活動が推進されるよう各種事業の改善に取り組んでいる。



内容

- ・登下校の安全指導、「蔵王登山・スキー」等の自然体験活動、「団七踊り」「神明神楽」等の伝統文化継承活動、米作り等の農業体験活動、中学生職場体験活動、キャリア教育事業、読み聞かせ活動、ベルマーク整理活動、防災教育活動等、多岐にわたって地域ボランティアの支援活動が行われている。
- ・蔵王登山研修会、ボランティア講演・研修会、情報交流活動を展開している。
- ・ボランティアだより「清流」を毎月発行配布し、メール配信も行っている。



ポイント

- ・市内小中学校・幼稚園に地域連携担当教員を配置し、支援ボランティアと学校との関係性を深めることや、ボランティア活動に対する市民の理解と絆を深めるための情報の発信と収集に重点を置いている。
- ・各学校からの支援要請にスムーズ応えられる体制づくりに努めている。
- ・ボランティア活動の現場の声を吸い上げ、課題の改善に努めている。



成果

- ・自然体験、農業体験、伝統文化継承体験など、教室や家庭では体験できない体験活動の支援を行うことで、児童生徒が地域を学び、理解し、誇りや愛着をもつことができている。
- ・体験活動中の安全確保、教職員の負担軽減に寄与している。
- ・地域が学校に、学校が地域に目を向ける大切な機会となっている。

今後の方向性

- ・第六次白石市総合計画で掲げる「シビックプライド～まちへの誇りと愛着～」の具現化に継続して取り組む。
- ・学校教育の現状を踏まえ、地域住民と情報共有を図りながら、地域の教育資源の有効活用に取り組む。
- ・学校と地域公民館や諸団体、事業所との連携の強化を図る。
- ・児童生徒が主体性を持って取り組む活動の場を広げていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組(学校支援活動)」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

文部科学省の掲げる「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域の力が結集される各公民館に、地域学校協働本部を設置している。5つの協働本部で各地区の地域コーディネーターを中心に、学校教育の支援を地域の住民らと共に、各地区の特色あるテーマを掲げ、実施している。



内容

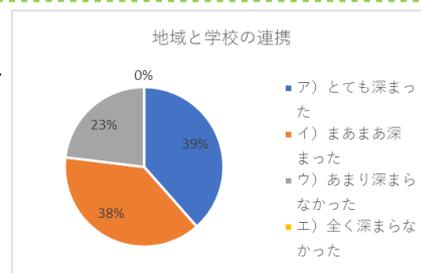
本市の地域学校協働本部は、富谷、富ヶ丘・日吉台、あけの平、東向陽台・明石台、成田の5つ設置し、地域ごとに5つのテーマをもとに、活動を展開している。富谷地区(富谷中央公民館)は、「富谷の伝承文化を大切にしよう」のテーマのもと、かつて宿場町として栄えた歴史と伝統のある「しんまち地区」をベースに、本市の歴史学習や伊達政宗公の時代より伝わる「富谷田植踊り」の体験学習を地域の方々と実施している。また、富ヶ丘・日吉台地区(富ヶ丘公民館)では、「私たちが生活する環境を大切にしよう」のテーマのもと、公園ピカピカ大作戦などで地域の公園の清掃活動を実施している。このほかにも各地区で、合唱指導や図書整備、作品展の実施など、テーマにとらわれず幅広い活動を行い、地域と学校を繋ぎながら、子どもたちの育成と地域コミュニティーの醸成に励んでいる。

ポイント

- ①地域からの信望の厚い地域学校協働活動推進員を各地区に数名配置。
- ②年に数回、学校の教員や地域関係者、行政区長らでつくる協議会を実施。
- ③学校ではなく、地域活動の中心である公民館に地域学校協働本部を設置。
- ④前例にとられない幅広い学校支援を行う。

成果

地域の人たちを交えた授業や活動を行うことにより、子どもたちの授業への理解度や地域の方との交流を深めることができた。地域の人たちにとっては、地域での希薄化されつつある地域コミュニティーを構築することができ、地域の横のつながりをも醸成されていると思われる。



今後の方向性

- ①地域学校協働活動推進員や学校支援ボランティアへの研修会を行い、コーディネート能力などの向上を目指す。
- ②地域から学校への支援のほか、子どもたち主体で地域に還元する取組ができるよう考える。
- ③地域、学校、行政がそれぞれ主体的に活動に取り組める環境づくりを行っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動(学校支援活動)」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町の地域学校協働活動では「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域・家庭・学校が連携しながら事業を展開している。地域コーディネーターを中心に、8つの小中学校それぞれの実情に合った活動を多岐に渡り実施している。

内容

(1) 学習支援活動

町内の小中学校における学習支援(指導・補助)を行う。毛筆指導、蔵王町の歴史講話、地層の学習、田植え・稲刈りの学習など

(2) 校外活動支援

町内の小中学校における校外学習の支援(指導・補助)を行う。登山指導など

(3) キャリア教育

中学生が社会人との関わりを持つことで、将来の自分を深く考えるきっかけを作る。職場体験学習、マナー講座、キャリアセミナーなど

ポイント

2人のコーディネーターが町内8小中学校からの依頼を取りまとめ、ボランティアとのマッチング、連絡・調整を行うことで学校側の負担軽減を図っている。地域資源や人材を活用した体験式授業により、実のある学習や地域との繋がりを強化できる。

成果

- ・コーディネーターによる連絡・調整でスムーズな学習継続が行われているため、学校側の満足度が高い。
- ・ボランティアが自分の知識や特技を活かせることで、活動に生きがいを感じている。
- ・ボランティアとの交流や地域資源の活用により子どもたちの郷土愛を高める。

今後の方向性

- ・コミュニティスクールとの連携を取りながら有意義な活動を発展させていく。
- ・幅広い活動を展開し、活動するボランティアの固定化を解消していく。
- ・ボランティア向けの研修や学校とボランティアの交流の場を設け、子どもたちを支えていく意識の向上を図りたい。



登校見守り活動



稲刈り体験



キャリアセミナー

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「柴田町協働教育推進事業 学校支援活動の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

学校の教育活動を地域が支援する体制を整備し、煩雑化した学校の業務を軽減し、教師の教育活動の時間確保と充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。また、地域住民や企業の社会貢献を実現し、学習機会の提供や生きがい・やりがい作りの場を作り、地域の教育力の向上を目指す。

内容

- (1) 学校の要請に応じて「しばたっ子応援団」(学校支援ボランティア)の派遣
- (2) キャリア教育支援
- (3) 柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催
- (4) しばたっ子応援団研修会の開催

ポイント

- (1) 「学校が必要としている支援」にコーディネーターが寄り添い、先生が児童・生徒を思う気持ちを最優先
- (2) キャリアセミナーは少人数で実施して生徒と社会人講師の距離をより近く
- (3) 町内全域で組織化し、学校間・地域間で様々な情報効果ができる
- (4) ボランティア同士のネットワークを構築し、「やりがい」の共有

成果

・学校支援ボランティア活動後のアンケートより、先生が負担を感じず(99%)、先生が良いと思える(100%)活動をコーディネートできた。また、活動に関わったボランティアの98%がやりがいを感じる活動にすることができた。さらに、目の前の活動に取り組むだけでなく、活動のねらいを重視した、地域と学校が連携・協働する姿が多く見られた。

・地域連携担当の先生からの相談からボランティアが関わる学校支援活動につながるが増えてきており、学校と地域をつなぐコーディネーターの活動が浸透してきている。

職場体験
学習



しばたっ子
応援団の
派遣



しばたっ子
応援団
研修会



今後の方向性

町内小中学校の児童・生徒・先生のニーズに沿うようなしばたっ子応援団員を確保するために、新規入団者の募集や発掘を随時行っている。町内の住民や団体だけでなく、町内外の事業所等にもしばたっ子応援団に登録していただくことで、今後も継続的に地域学校協働活動を実施し、学習の機会を提供する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学校の働き方改革をふまえた学校支援活動)の取組事例

「キャリアセミナー」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

地域を再生していくにあたり、自分たちの生き方やまちづくりについてしっかりと考えることのできる児童・生徒を育成することが大切である。

そこで、町内中学校の生徒に対し、様々な職業や立場で活躍している方の講話を聞くことができる場面を設定している。

生涯学習課主催となり、NPOへ委託し、学校の働き方改革をふまえた学校支援(キャリア教育支援)の一環として、平成24年度から継続して開催している。

働く意義、喜びや苦勞、夢を実現させるための過程で大切にすべきことなどを聴き、自分の生き方をしっかりと考える機会とすることを旨とした事業を行っている。

内容

○NPO法人ハーベストに、事前打合せ及び当日の運営を委託。

○町内4つの中学校で実施。中学2年生対象(小規模校は1、2年生)

○学校規模及び要望等をふまえた講師選定をお願いして、生徒は希望の講師2人から1時間×2コマずつ受講してアンケート用紙記入。

ポイント

①学校の働き方改革をふまえた、キャリア教育支援の一環として、学校や生徒の要望も取り入れた柔軟な講師選定及び協力体制を構築し、生徒の学びを深める。

②様々な職業や立場の講師を選定により、生徒の興味・関心を引き出す。

成果

・将来の目標が決まっていない、大人になることや働くことのイメージができていない生徒が多数。どのように生きていきたいか、また、将来の夢や職業をどのようにしていきたいかを考えることに対する意識の深まり高まりが感じられた。

・NPO法人ハーベスト及び講師の方々、学校が、事業の趣旨を理解し、自分たちの生き方についてしっかりと考えることのできる生徒の育成に対する協力体制が感じられる。

※校長先生の感想抜粋

生徒は普段、家族と教員しか接する大人がいない。身近にいる様々な職業をしている大人の生の体験談を聞いたことは大変有意義である。講師の先生方と一緒に教室へ戻ってくる生徒の様子を見て、ためになる充実したお話をいただいたと感じた。



今後の方向性

・現在、町内4校の中学校2年生対象で開催しており、職場体験も2年生で実施しているため、繋がりを意識した事業展開をしていくことも有効であると考えられる。

・講師の選定にあたって、まちづくりに関わる方に来てもらい、講話をいただくことでより、まちづくりに興味・関心を持ってもらうようにする。